



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：米国との関係

(6月10日付 ISNA)

6月10日、イラン外務省ホセイニ報道官の発言：

1. イラク問題に関するイラン・米国協議

- (1) (もしも本協議が継続される場合、次回の時期及び場所は如何との問いに対し) 現在、先般のバグダードでの第一回協議の成果について検討しているところであり、検討後に本協議継続の可否につき決定がなされるであろう。
- (2) (本協議が継続されないことも有り得るかとの問いに対し) イラク問題に関する次回協議が1ヶ月以内に行われるとの報道は、なんら確たるものではなかった。先般の協議の成果について検討が行われた後、決定がなされるであろう。

2. イラン人外交官5名拘束の件

- (1) 米国は、イランで拘束されている4名の米国籍イラン人が解放されれば、エルビルで拘束された5名のイラン人外交官を解放する考えにも思われるが如何との問いに対し) イラン人外交官の解放に向けた我々の取り組みは継続されており、本件に関してはあらゆる法的側面からフォローしている。米国は、直ちに彼らを解放し、非合法的措置及び国際協定違反について回答しなければならない。
- (2) イラク政府は、イラン人外交官5名が近い将来に解放されるよう対応する責任がある。当然、我々は本件をフォローする上で、あらゆる可能性を活用する。
- (3) エルビルのイラン総領事館の損害賠償については、イラン外務省の法務、領事及び会計部局が合同で調査を行い、しかるべく損害賠償を行うことになる。

3. 独国における反体制派グループ会合の開催

- (1) (先般、チェイニー米副大統領夫人が出席し、独国でイラン反体制派グループ「国民戦線」なる組織の会合が行われたが、これに対するイラン政府の立場を問われ) この「戦線」なるものは、イラン国民の間で全く基盤を持っていないのみならず、むしろ嫌悪されている。又、反体制派内においても特別の地位を有していない。実際、米国の彼らに対する投資は米国民の資金の無駄使いであり、これまでに何らの成果も上がっていない。
- (2) チェイニー副大統領夫人の同会合への出席は、米国のイランに対する敵対的政策を示している。これまでも同夫人はイラン国民の利益に反する計画及び立案を目的とする組織を幾つかの国々に設立するなど、我々に対する敵対行為に努めてきている。

4. 元 FBI 職員 の 消息 及び 米国 在住 イラン 人の 拘束

- (1) (イランで消息不明となっている元 FBI 職員について問われ) 我々は、正式な口上書を発出しており、駐イラン・スイス大使(注：米国の利益代表)と外務省米州局長との会談でも、レビンソン氏に関する詳細な情報は入手していない旨を述べている。
- (2) (アリー・シャーケリなる人物の拘束とその容疑を問われ) 我々が承知しているのは、同人が拘束されているということである。同人の容疑に関しては、先週、司法権報道官が説明している。